

國學院大學學術情報リポジトリ

〔談話室〕 真床覆衾と“國學院流神道”：ふたたび

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岡田, 莊司, Okada, Shoji メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00000299

真床覆衾と「國學院流神道」——ふたたび

岡田莊司

本誌・平成元年（一九八九）七月号いらい、二十八年ぶりの「談話室」登場である。その誌上において、折口信夫先生の大嘗祭の本義にかかわる真床覆衾論（中央の神座／寢座／における天皇の秘儀）を否定した。その中で、同年三月刊行された『圖書寮叢刊』所収の摂政藤原忠通「大嘗会卯日御記」（崇徳天皇大嘗祭）を紹介し、

「私の理解する大嘗（新嘗・月次の神今食を含めて）の祭儀の本旨は天皇親祭による神膳の御供進と共食にあり、いわゆる「真床覆衾」にくるまる秘儀はまったくなかったと考えている。秘儀とは前者のみをさしている。したがって折口説を容れる余地はなく、「國學院流神道」なる範疇がもしあるとすれば、私は國學院において、はみ出し者以外の何者でもない。（中略）嘗殿に設けられた神座は客人としての神祖がお休みになられるために見立てられた神座であり、ここには天皇といえども近寄ることはなかったと考えたい。即ち、折口の推論である「真床覆衾」説は六十年間にわたって私たちに与えつづけてきた幻想であり、「國學院流神道」も存在しないことになる。」

と論じた。大嘗祭の本義をめぐる折口論に対して外部から「國學院流神道」と命名する論も出ていたので、私は「はみ出し者」と言ったのであったが、拙論は即座に当時の週刊誌に取り上げられ、「論争が起こって然るべき重大な問題提起」と批評された。平成の大嘗祭論争のはじまりである。その半年後、本誌・平成元年十二月号に、金田弘文学部長のお薦めで、その詳細な論文「大嘗祭——真床覆衾論と寢座の意味」を掲載していただいた。

当時、教授会の席では、私のまわりに、岡野弘彦先生をはじめ、多くの折口先生門下生の先生方がおられたが、やさしく接していただいたことは有り難かった。ただ、院友でもある岡田精司・松前健先生らのご批判は厳しく、その後、研究者の間から批判の雑誌特集号が生まれ、数十の批判論文が出回ることになる。

同年（平成元年）三月に刊行された『続日本紀』第一巻（新日本古典文学大系・岩波書店）の補注、新嘗祭（三四二

頁)では「神との共食とともにマトコオフスマの秘儀が行われたが、その詳細は知りえない」、また月次祭でも「天皇は中和院内の神嘉殿において二度にわたり神と共食する。またマトコオフスマの秘儀を行う」とあり、折口論が席巻していた。その三年後の同書第三卷(平成四年十一月)では、「新嘗祭の祭儀の中心は、卯の日の夕刻に天皇が入浴齋戒したのち、神嘉殿において天皇みずから神々に新穀による神酒・神饌を供し、みずから食する祭儀であった」(五一頁)と、ここでは折口論の影はなく、次第に否定論が浸透したものと考えたが、なお折口論の派生である聖婚儀礼説は、いまでも燦ぶりつづけている。その後の反論と研究史は、本誌・平成十五年十一月号「大嘗祭「寢座」秘儀説の現在」で論じた。

拙論について、赤坂憲雄氏は「國學院という、むしろ折口学の影響が強いとおもわれる場所から投げかけられた折口批判である点で、わたしたちにある衝撃をもたらした」(『象徴天皇という物語』平成二年)とされ、その上で「ここに描かれた大嘗祭の像は、かぎりなく平板で、かぎりなく貧しい。大嘗祭の祭儀の核心は、天皇がただひとりで皇祖神アマテラスと神饌を共食することである、という。アマテラスは天皇家の神話的な始祖である。その皇祖神アマテラスに神饌をそなえ共食することが大嘗祭であるなら、それは国民とも国家とも関わりのうすい、天皇家のイエサリにすぎない」という結論が導きだされはしないか」と批判されたことは印象深い思い出である。

大嘗祭は新嘗祭がその基になっており、イネ祭りを中心とした、神道祭祀の本義とされる食膳儀礼、最高の「お・も・て・な・し」である。東日本大震災の発生は、神道の神観念に大きな影響を与えた。神道祭祀は人間日常の食生活につながる食膳儀礼であり、自然の厳しい脅威に向き合い、大災害を眼前にした私たちにとって、今はとてもこれを「かぎりなく平板で、かぎりなく貧しい」祭祀儀礼とは言えない。

「秘事」とされる大嘗祭祈請文(後鳥羽院「大嘗会神饌秘記」『神道大系・踐祚大嘗祭』)の前半は、新穀を供える毎年の新嘗祭と趣旨は同一である。その後半では、災いを未然に防ぎ、自然の山河、所々が鎮まるように祈念した。それは自然の恵みへの感謝と災害の予防であった。大嘗祭と天皇祭祀は災害への対応を組み込むことで、祭祀への理解が深まることになる。

本日、「天皇の退位等に関する皇室典範特例法案」が公布された。これを受けて、平成の年号は終わり、新元号が定められ、天皇即位、そして二年後の秋十一月には、つきの大嘗祭を迎えることになる。(六月十六日記)

(宮中祭祀・日本神道史)